

インフォメーション・コーナー

会 告

○公益社団法人農業農村工学会第59回定時総会の報告	74
○2026年度名誉会員の推挙	75
○第30期理事役職者の選定および会務分担	75
○第76回(2027年度)農業農村工学会賞候補の推薦 締切 10月31日	76
○農業農村工学サマーセミナー2026参加者募集! 8月27~29日開催	76
○今年もやります! 農業農村工学会ミニ動画コンテスト“こりゃ映像! 2026”(再) 応募締切 7月31日	77
○新刊「農業用ダム保全管理工学」の発刊	78
○「農業用ダム保全管理工学」のカバーを修正しました	78
○新刊 土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「排水」の発刊	78
○新刊 土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「農道」, 設計「頭首工」, 設計「農道」の発刊	79
○お願い!! 持続可能な農業農村工学のための学術基金へのご寄付	79
○CPD 通信教育の参加者募集!! 問題と解答はホームページに掲載	80
○「水土の知(農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!	80
○改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF版およびWeb版の閲覧申込み案内	82
○2027年の学会誌表紙写真の募集 応募締切 9月30日	82
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2026年7月から2029年6月までの編集体制と編集事務局	83
○関東支部2026年度技術研修シンポジウムの開催(第1報) 9月15日開催	84
○第81回中国四国支部講演会および第50回地方講習会の開催案内(第1報) 講演原稿提出締切 9月8日	84
○第1回農村計画研究部会 次世代と学ぶ農村計画(現地研修)の開催(第2報) 申込締切 7月17日	86
○令和8年度農業農村整備サマーセミナー(農村振興研修会)の開催 7月23日開催	87
○業務に役立つセメント系補修・補強材料の技術講習会の開催	87
農業農村工学会論文集 内容紹介	88
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム(一般参加可) 一覧	89
学会記事	90

第94巻第8号予定

展望: 人材の集まる農業農村工学に向かって: 平松 研

小特集: 農業高校を取巻く多様な人材育成の取組み

報文: 帯広農業高校におけるICT教育と農業土木工学科の取組み: 人見高史

報文: 農業高校学習と学会への成果公表を支援した大学の取組み: 宗岡寿美ほか

報文: 農業高校による社会関係資本構築と関係人口育成の可能性: 西原是良ほか

報文: 久居農林高等学校における高大連携教育プログラムの実践: 廣住豊一ほか

報文: 農業高校でのプロジェクト学習や交流学習による教育実践: 武田誠司

レポート: 環境創造科農業土木コースにおける人材育成の取組み: 倉地進也

技術レポート

北海道支部: 冬期に施工期間が制限された頭首工の補修事例: 佐々木滉介ほか

東北支部: ため池の防災・減災における課題と岩手県内の取組み: 高村康徳ほか

関東支部: 長野県における水門自動化・遠隔化の効果と普及に向けた課題解決策: 中島智弥ほか

京都支部: 排水機場の真空ポンプにおける小配管の腐食対策: 橋本 樹

中国四国支部: ため池改修時の工場製品導入がもたらす効果: 参鍋漱祐

九州沖縄支部: 八重山地域における畑地灌漑施設の更新に関する事例: 伊波秀起

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちしております。

㊦のマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。なお、ライブ配信での口頭発表が行われない場合は、認定プログラムの対象にならないこともございます。詳しくは主催先の各支部または各研究部会にお問い合わせください。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
2026年7月3日	農村生態工学研究部会	現地研修会	—	岐阜県安八郡、海津市	94巻6号
2026年8月25～28日	大会運営委員会	2026年度（第75回）農業農村工学会大会講演会 ㊦	—	大阪市	93巻12号、94巻1、2、3、4、5、6号
2026年8月27～29日	農業農村工学サマーセミナー 2026 実行委員会	農業農村工学サマーセミナー 2026	—	大阪市	94巻7号
2026年9月1～3日	農村計画研究部会	第1回次世代と学ぶ農村計画（現地研修）	都市農村交流による持続的な農村振興	群馬県みなかみ町	94巻5、7号
2026年9月15日	関東支部	2026年度技術研修シンポジウム ㊦	農村における外来種対策の最前線	Web	94巻7号
2026年10月29～30日	中国四国支部	第81回支部講演会 第50回地方講習会 ㊦	—	徳島市	94巻7号
2026年10月29～30日	九州沖縄支部	令和8年度（第107回）支部大会 ㊦	未定	大分市	94巻4号
2026年11月10日	関東支部	第77回支部大会 ㊦	—	甲府市	94巻6号
2026年11月19～20日	京都支部	第83回研究発表会 ㊦	—	京都市	94巻4、6号

公益社団法人農業農村工学会第59回定時総会の報告

1. 日時 2026年5月28日（木）14：00～14：55
2. 場所 農業土木会館2階A会議室
3. 代議員現在数及び定足数
現在数 125名 定足数 63名
4. 出席代議員数 96名（内、出席3名、書面により議決権を行使した代議員63名、委任状により議決権を代理行使した代議員30名）
5. 定足数の確認等
総務部長が、定款第21条に基づき定足数の充足による本定時総会の成立を確認した。
6. 出席役員
会長 西村 拓、副会長 奥田 透、専務理事 小泉 健、監事 重岡 徹
7. 議長の選出
事務局提案の渡辺 巧代議員を全員一致で議長に選出した。
8. 議事録署名人の選出
議長が議事録署名人2名の選出について諮ったところ、石島光男、西脇淳子の両代議員を全員一致で選出した。
9. 議案
報告事項
- （1）報告事項-1 2026年度事業計画
専務理事から2026年度事業計画について説明があった。
- （2）報告事項-2 2026年度予算
専務理事から2026年度予算について説明があった。

- 決議事項
- （1）議案-1 定款の一部変更（案）について
専務理事から同議案について説明があり、審議の結果、提示案どおり全員一致で可決した。
- （2）議案-2 2025年度事業報告
専務理事から同議案について説明があり、事業計画に掲げた事項が遂行された実績を確認し、審議の結果、提示案どおり全員一致で可決した。
- （3）議案-3 2025年度決算（案）
専務理事から同議案について、財務諸表をもとに公1調査研究等事業会計、公2技術推進事業会計及び法人会計の説明及び監事監査の報告があった。審議の結果、提示案どおり全員一致で可決した。
- （4）議案-4 名誉会員の推挙
専務理事から同議案について、18名の方の名誉会員推挙の説明があった。審議の結果、提示案どおり全員一致で可決した。
- （5）議案-5 役員の選任
第29期役員の任期満了に伴い、第30期役員候補一人一人の賛否について、次のとおり選任した。
- 理 事 20名
石井 敦、大西絢子、加藤 亮、金山素平、桐 博英、酒井一人、白谷栄作、申 文浩、中村公人、常陸孝一、平松 研、藤原正幸、藤岡寿美子、細野英彦、宗岡寿美、

村田基次, 室本隆司, 守田秀則, 山下清則, 吉田修一郎 2026 年 5 月 28 日

監 事 2 名

村山 香, 重岡 徹

議長は、以上をもって議案の審議等を終了したので、14 時 55 分議案の終了を宣言した。

以上の議決を明確にするため、本議事録を作成し、議長及び議事録署名人がこれに署名捺印する。

公益社団法人農業農村工学会第 59 回定時総会
(議事録作成者)

議 長 渡辺 巧

署名人 西脇 淳子

署名人 石島 光男

2026 年度名誉会員の推挙

2026 年 5 月 28 日に開催された第 59 回定時総会の推挙により、以下の皆様が新たに名誉会員となりました。

これにより名誉会員の現在数は、275 名となりました。

新規名誉会員 (敬称略)

関口光司, 木村麟太郎, 谷西 毅, 山口治行, 工藤 島,
高橋敬明, 久野格彦, 加藤 聡, 又木雄二, 登尾浩助,
雑賀幸哉, 粉井和朗, 奥山武彦, 大澤賢修, 安中武幸,
本間泰造, 辻 修, 倉島栄一

第 30 期理事役職者の選定および会務分担

2026 年 5 月 28 日開催の第 289 回理事会において、理事の中から定款第 27 条第 2 項の規定に基づき会長、副会長、専務理事を選定した。

また、第 30 期理事の会務分担および常置委員会委員長等を次のように決定した。

記

1. 会長等

会 長 藤原正幸
副 会 長 室本隆司
副 会 長 吉田修一郎
副 会 長 村田基次
専務理事 白谷栄作
外部理事 大西絢子
監 事 村山 香
監 事 重岡 徹

2. 理事の担当部門

〔担当部門〕 〔総括する副会長〕〔担当事務〕
企画・運営業務 室本隆司 桐 博英, 金山素平
藤岡寿美子, 細野英彦
学会誌等定期刊行活動 吉田修一郎 中村公人, 桐 博英
金山素平, 宗岡寿美
申 文浩, 石井 敦
平松 研, 守田秀則
酒井一人
講演会等行事活動 室本隆司 常陸孝一, 桐 博英
細野英彦, 山下清則
加藤 亮
調査・研究活動 吉田修一郎 加藤 亮, 桐 博英
藤岡寿美子, 中村公人
編集・出版活動 吉田修一郎 中村公人, 加藤 亮

国際活動

吉田修一郎 中村公人, 加藤 亮
金山素平

技術者教育活動

村田基次 平松 研, 常陸孝一
山下清則, 金山素平
細野英彦, 守田秀則
酒井一人

支部業務

室本隆司 吉田修一郎, 村田基次
宗岡寿美, 申 文浩
石井 敦, 平松 研
守田秀則, 酒井一人

3. 第 30 期常置委員会委員長等

企画委員会 桐 博英
広報委員会 藤岡寿美子
学術基金運営委員会 室本隆司
スチューデント委員会担当 金山素平
定期刊行物委員会 桐 博英
学会誌企画・編集委員会 金山素平
論文集企画・編集委員会 中村公人
行事企画委員会 細野英彦
研究委員会 加藤 亮
上野賞選考委員会 加藤 亮
学会賞選考委員会 吉田修一郎
出版企画委員会 吉田修一郎
国際委員会 吉田修一郎
JABEE 担当 平松 研

第76回（2027年度）農業農村工学会賞候補の推薦

第76回（2027年度）の農業農村工学会賞（上野賞、沢田賞を除く）を、下記の募集要項に則って、推薦書によりご推薦ください。なお、推薦書様式および授賞規程は学会ホームページ（<https://www.jsidre.or.jp/format/>）をご参照ください。

推薦書提出先および提出方法：学会賞選考委員会担当（new-suido@jsidre.or.jp）宛に電子メールでお送りください。

提出ファイル：推薦書のエクセルファイルおよびエクセルファ

イルをPDF化したファイルの2ファイル（推薦者の押印は不要、パスワードを設定してください。）

推薦締切：2026年10月末日

その他：メールが届き次第、受領の返信をしますが、数日経過しても返信がない場合は、上記担当者宛にお問い合わせください。

第76回（2027年度）農業農村工学会賞 募集要項

賞の種類	学術賞	奨励賞		優秀賞			
		研究奨励賞	技術奨励賞	優秀論文賞	優秀報文賞	優秀技術賞	優秀技術リポート賞
賞の趣旨	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に貢献した創意ある優秀な業績	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に寄与すると認められる優秀な業績	農業農村工学に関する計画、設計、施工、管理等の技術業績	農業農村工学に関する学術または技術についての優秀な業績	農業農村工学に関する単独の論文業績	農業農村工学に関する単独の報文業績	農業農村工学に関する単独の技術リポート業績
賞の対象期間	2021年10月から2026年9月までに発表されたものとする。ただし、その5か年以内に発表したものと同じ課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	2023年10月から2026年9月までに発表されたものとする。ただし、その3か年以内に発表したものと同じ課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	2023年10月から2026年9月までに発表されたものとする。ただし、その3か年以内に発表したものと同じ課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	2025年10月から2026年9月までに発表されたものとする。	2025年10月から2026年9月までに発表されたものとする。	2024年10月から2026年9月までに発表されたものとする。	2021年10月から2026年9月までに発表されたものとする。
賞の対象業績	原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。			原則として本学会の刊行物に発表された論文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された報文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。主として現場調査資料、現場技術報告とする。	原則として本学会の刊行物に発表された技術リポートとする。
受賞候補者	個人			個人または組織・団体			
推薦の方法	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。			正会員および名誉会員の自薦、他薦または学会誌・論文集の企画・編集委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。			

賞の種類	著作賞	教育賞	環境賞	歴史・文化賞	地域貢献賞	国際貢献賞	メディア賞	功労賞
賞の趣旨	原則として一般に市販されている図書の中で、農業農村工学に関する学術または技術を広く世に紹介することに顕著な貢献をしたと認められる業績	農業農村工学に関する教育、技術者の継続教育など資質の向上に寄与したと認められる活動で優れた業績	農業・農村の生産・生活環境の改善や生態系保全など、美しい環境の保全や創出において優れた計画および施工を行い、もしくは管理・保全活動を行った業績	農業農村工学に関する歴史・文化を広く世に紹介し、あるいは研究分析などを行った業績	農村地域社会の発展・活性化に貢献した業績	農業農村工学に関する学術または技術について、国際的な交流や調査研究で優れた業績	農業農村工学を紹介したパンフレット、ビデオ作品、教材スライド、映画等	長年にわたる、地道な教育・研究または実務の積み重ねを通じて、農業農村工学の学術または技術の進歩発展に多大の功労があったと認められる者
賞の対象期間	2016年10月から2026年9月までに発表されたものとする。	2021年10月から2026年9月までにを行った活動とする。	2024年10月から2026年9月までにを行った活動とする。	2021年10月から2026年9月までにを行った活動とする。	2021年10月から2026年9月までにを行ったものとする。	2021年10月から2026年9月までにを行ったものとする。	2024年10月から2026年9月までに制作したものとする。	
賞の対象業績	ハンドブック・便覧の類の著書および翻訳書は対象としない。また、改訂版にあつては全面改訂したもののみを対象とする。							2026年度末に65歳以上に達している者
受賞候補者	著者	個人または組織・団体				個人	個人または組織・団体	個人
推薦の方法	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員および名誉会員の自薦、他薦または技術者継続教育機構CPD運営委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。		正会員および名誉会員の自薦、他薦または国際委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。
選考の方法	学会賞選考委員会において行う							
賞の決定	理事会において行う							
表彰	2027年度（第76回）農業農村工学会大会講演会において会長が授与する							
推薦締切	2026年10月末日							
推薦書の提出先	公益社団法人 農業農村工学会 学会賞選考委員会宛 new-suido@jsidre.or.jp							

農業農村工学サマーセミナー 2026 参加者募集！

農業農村工学サマーセミナーは、農業農村工学を学ぶ学生や若手社会人・研究者の交流の活性化を目的とした学生主催のセ

ミナー企画です。今年度も農業農村工学サマーセミナー 2026の開催を企画しています。内容や参加費が決まり次第、サマー

セミナーのホームページや会告等でお伝えします。他大学の学生や他機関の社会人・研究者と農業農村工学に関する議論をしてみたい方、交流したい方、まだ研究室に所属していないけど農業農村工学について知識を深めたい学部学生など、どなたでも大歓迎です。たくさんのご参加をお待ちしております。

1. 主 催

農業農村工学サマーセミナー 2026 実行委員会

藤田直己 (大阪公立大学大学院農学研究科)

浅野珠里 (東京大学大学院農学生命科学研究科)

浦畑 夢 (三重大学大学院生物資源学研究科)

近藤航樹 (東京農工大学大学院連合農学研究科)

中山美沙希 (宇都宮大学大学院地域創生科学研究科)

神田亮佑 (宇都宮大学大学院地域創生科学研究科)

奥野勇佑 (宇都宮大学大学院地域創生科学研究科)

中田丞治 (東京農工大学大学院先進学際科学府)

武内宏一郎 (東京農工大学大学院先進学際科学府)

木下花菜子 (大阪公立大学農学部)

2. 開催方式 現地のみ

(※本年度もオンライン開催を行いません。)

3. 対 象 学部学生、大学院生、若手社会人、若手研究者

4. 日 時 2026 年 8 月 27 日 (木) 学会終了後 (夕方頃) ~ 29 日 (土) 正午頃終了予定

5. 参加費 未定

6. 企画内容 未定

※スケジュールの詳細、参加費、企画内容は決まり次第サマーセミナーホームページに記載予定です。

【過去の活動内容例】

2025 年度 (現地開催) : グループディスカッション 2 題 (「宇都宮の地域資源を使った「ご当地餃子」を考えよう」, 「ご当地餃子を支える農業農村工学的アプローチを考えよう」), 親睦会, 現地見学 (大谷石資料館, カネホン採掘場) など

2024 年度 (ハイブリッド開催) : グループディスカッション 2 題 (「あなたのオススメツールは何? 研究活動に有用なツールを紹介し合おう」, 「リング栽培アイデアコンペティション! ~重労働を軽減する技術や仕組みを考えよう~」), 街歩き, 現地見学 (弘前市, 青森市内) など

2023 年度 (ハイブリッド開催) : グループディスカッション 2 題 (「四国の農業農村の特色を話し合い, 他県との違いを探す」, 「耕作放棄地がどのように使われているかを調べ, 新しい使い方を考える」), 街歩き, 現地見学 (松山市内) など

7. 問合せ

E-mail : n.n.summer.seminar@gmail.com

URL : <https://sites.google.com/view/n-n-summer-seminar>



今年もやります! 農業農村工学会ミニ動画コンテスト “こりゃ映像! 2026” (再)

農業農村工学会広報委員会では、下記のとおり、農業農村工学を紹介する動画を広く募集します。

1. 応募締切 2026 年 7 月 31 日 (金)

2. 動画の制限時間 60 秒以内

3. 2026 年度のテーマ 「農業農村で〇〇を試してみた結果…」

※「〇〇」と「…」には、ご自身の応募動画に沿った文言を記入

4. 応募資格 どなたでも応募できます。

5. 応募方法 指定されたタグを付けて動画を YouTube へアップロードする。

6. 審査方法 広報委員会動画 WT で審議の上、最優秀賞 1 作品、優秀賞 2 作品を決定する。

7. 賞 金 最優秀賞 (1 作品) 2 万円 優秀賞 (2 作品) 各 1 万円

8. アップロード方法

- ①動画を作成する。
- ② YouTube にアップロードする (9. 参考資料を参照)。
- ③ タグに 3 つのワード (jsidre2026, こりゃ映像, 農業農村) を入れる。
- ④ カテゴリに「科学と技術」を選ぶ。
- ⑤ 下記の情報を広報委員会動画 WT (new-suido@jsidre.or.jp) 宛にメールで送る。

氏名, 所属, 連絡先, YouTube 動画の URL

9. 参考資料

・ YouTube に PC から動画をアップロードする方法
<http://douga-tec.com/?p=4974>

・ スマホから YouTube に動画をアップロードするには— Android 入門
<http://android.f-tools.net/Q-and-A/YouTube-Upload.html>

<参考>こりゃ映像 2025 結果

最優秀賞: 害虫を祓い豊作を祈願する神秘の祭り~虫送り~ 小豆島

神戸大学大学院農学研究科 永谷太志・重吉振一郎
https://youtu.be/0UKgma5ZpI0?si=r_KHEhIO3H1meyrA
優秀賞: ここだけの! 水土里 能登の水田 ~環境保全と農業復興への挑戦~

内外エンジニアリング(株)技術 1 部

(内外エンジニアリング(株)能登復興支援チーム
なっとない能登)

福竹望実・田原郁子

<https://youtu.be/Bhg5SpP0C4M>

優秀賞: 田んぼさんぽ

三重大学生物資源学部共生環境学科農業土木学教育コース

新刊 「農業用ダム保安全管理工学」の発刊

農業農村工学会では、学会内で長年活動した農業用ダム保安全管理研究会を母体に農業用ダム保安全管理工学編集委員会を組織して、「農業用ダム保安全管理工学」を出版しました。改正土地改良法において、保全が明記されています。そのため、現場技術者が知っておくべき農業用ダムの技術を基礎的な事項から解説することで、技術研修のテキストや大学での教科書にも活用できることを意図しています。

購入希望の方は、下記要領にてお申し込みください。

1. 発行書籍

書籍名：農業用ダム保安全管理工学
編 集：農業用ダム保安全管理工学編集委員会
発 行：(公社)農業農村工学会
価 格：3,960 円 (税込)、学割：2,860 円
送 料：1 冊 200 円 (最大 600 円)
規 格：A5 判 306 ページ
発行日：令和 7 年 9 月 1 日

2. 申込み方法

I. 個人、法人の場合 (賛助会員を除く)

① 郵便振替：郵便局の払込取扱票の通信欄に書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先をご記入ください。

振替口座番号：00160-8-47993

加入者：公益社団法人 農業農村工学会

② 現金書留：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書をご同封ください。

③ 代金引換：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を記載した注文書に「代引希望」と書き添えて E-mail でお送りください。別途、送料の実費と代引手数料が必要です。

II. 官公庁の公費購入および賛助会員の場合

書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書を E-mail でお送りください。

3. 申込み先

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

(公社)農業農村工学会事務局 図書係

TEL：03-3436-3418

E-mail：suido@jsidre.or.jp

「農業用ダム保安全管理工学」のカバーを修正しました

令和 7 年 9 月 1 日に発刊しました「農業用ダム保安全管理工学」について、カバーに不備が見られましたので修正しました。大会講演会会場にてご購入いただきました方には修正版のカバーを送付しますので、下記あてにご連絡をお願いします。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

(公社)農業農村工学会事務局 図書係

TEL：03-3436-3418

E-mail：suido@jsidre.or.jp

新刊 土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「排水」の発刊

令和 7 年 4 月に制定された、土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「排水」(農林水産省農村振興局編集)を令和 7 年 12 月に発刊しました。

購入希望の方は、下記要領にてお申し込みください。

1. 発行書籍

書籍名：土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「排水」基準、基準の運用、基準及び運用の解説、技術書
編 集：農林水産省農村振興局
価 格：2,530 円 (税込)、送料：1 冊 200 円 (最大 600 円)
規 格：A4 判 366 ページ
発行日：令和 7 年 12 月 17 日

2. 申込み方法

I. 個人、法人の場合 (賛助会員を除く)

① 郵便振替：郵便局の払込取扱票の通信欄に書籍名、冊

数、送付先、担当者名、連絡先をご記入ください。

振替口座番号：00160-8-47993

加入者：公益社団法人 農業農村工学会

② 現金書留：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書をご同封ください。

③ 代金引換：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を記載した注文書に「代引希望」と書き添えて E-mail でお送りください。別途、送料の実費と代引手数料が必要です。

II. 官公庁の公費購入および賛助会員の場合

書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書を E-mail でお送りください。

3. 申込み先

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

(公社)農業農村工学会事務局 図書係

TEL : 03-3436-3418

E-mail : suido@jsidre.or.jp

新刊 土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「農道」、設計「頭首工」、設計「農道」の発刊

令和6年3月に制定された、土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「農道」、設計「頭首工」、設計「農道」（農林水産省農村振興局編集）を令和6年10月に発刊しました。

購入希望の方は、下記要領にてお申し込みください。

1. 発行書籍

書籍名：土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「農道」基準、基準の運用、基準及び運用の解説、技術書

編集：農林水産省農村振興局

価格：1,760円（税込）、送料：1冊200円（最大600円）

規格：A4判 173ページ

発行日：令和6年10月10日

書籍名：土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 設計「頭首工」基準、基準の運用、基準及び運用の解説、技術書

編集：農林水産省農村振興局

価格：4,510円（税込）、送料：1冊200円（最大600円）

規格：A4判 728ページ

発行日：令和6年10月7日

書籍名：土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 設計「農道」基準、基準の運用、基準及び運用の解説、技術書

編集：農林水産省農村振興局

価格：2,970円（税込）、送料：1冊200円（最大600円）

規格：A4判 850ページ

発行日：令和6年10月7日

2. 申込み方法

I. 個人、法人の場合（賛助会員を除く）

① 郵便振替：郵便局の払込取扱票の通信欄に書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先をご記入ください。

振替口座番号：00160-8-47993

加入者：公益社団法人 農業農村工学会

② 現金書留：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書をご同封ください。

③ 代金引換：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を記載した注文書に「代引希望」と書き添えてE-mailでお送りください。別途、送料の実費と代引手数料が必要です。

II. 官公庁の公費購入および賛助会員の場合

書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書をE-mailでお送りください。

3. 申込み先

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

（公社）農業農村工学会事務局 図書係

TEL : 03-3436-3418

E-mail : suido@jsidre.or.jp

お願い!! 持続可能な農業農村工学のための学術基金へのご寄付

社会的状況を踏まえ学会では2026年度の学生年会費を免除しています。また、大学改革の第二幕を迎えている現在、若手の研究者のみならず、教授を含めた大学教員の研究環境は悪化の一途を辿っており、研究費の削減から人材の育成も困難になっています。そのため、産官学の連携協力の強化を進めているところですが、その一環として、学会にある学術基金の拡充が喫緊の課題となっています。

2024年5月には、持続可能な農業農村工学教育のため「技術者育成のための調査・研究費」を学術基金から公募により必要な大学に支援する学術基金制度の拡充（⑦）を行いました。

使用目的を明確化していますので、ほかに使用することはなく、税制上の優遇措置もあります。新技術の開発と人材の確保・育成のため、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、衷心よりお願い申し上げます。

学術基金の枠組みは、以下のとおりです。

（1）学会の事業計画に沿った調査・研究（学会に一任）

（※特に記載がなければ（1）として扱います。）

（2）条件を付した寄付

選定条件【 】

① ダム保全管理工学に関する調査・研究の推進
・気候変動、国土強靱化に対応した既存ダムの保全管理工学の体系化を推進

② 大規模コンクリート構造物の設計・施工に関する調査・研究の推進
・頭首工などコンクリートの大型構造物のプレキャスト化など効率的な施工による生産性の向上や工事期間の短縮に資する技術開発

③ ①、②以外の分野および学際的・学際的に関する調査・研究の推進
・上記①、②以外、たとえばICTなど新たに取り組んでほしい技術

④ 国際学術会議への出席等の国際交流の推進

- ⑤ 若手研究者の育成の推進
- ⑥ 顕著な功績のあった農業工学遺産の保護等の推進
 - ・ 青山霊園にある上野英三郎博士の墓所管理
 - ・ 世界かんがい遺産などの保護に資する調査・研究 など
- ⑦ 技術者育成のための調査・研究の推進

詳しくは学会ホームページ (https://www.jsidre.or.jp/gakujutsukikin_kifuno-onegai/) をご覧ください。

個人会員一口 5,000 円 (何口でも可)

法人会員一口 50,000 円 (何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社)農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

公益法人である学会に法人が寄付すると法人税に対して税制優遇措置 (一般損金算入限度額 + 特別損金算入限度額) が受けられます。また個人が寄付する場合は、所得税等の寄付金控除が受けられます。

CPD 通信教育の参加者募集 !! 問題と解答はホームページに掲載

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま取得できる方法として、平成 17 年 10 号から農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり、かつ CPD 個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大 24 cpd を取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教育へご参加ください。

技術者継続教育機構のホームページにおいて、その時点で解答可能な「通信教育問題」と解答期限を過ぎた「解答」を掲載しています。学会誌がお手元に届くまでの間はホームページ上で通信教育問題をご確認いただけます。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構

の CPD 個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3 カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月 10 問を出題

3. 解答方法

Web 画面に正解と思う番号を入力し、送信 (事前に Web 利用登録が必要)

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

(例：学会誌 7 号掲載の問題は 8 月末日が解答期限)

5. 取得できる CPD 単位

10 問正解で 2 cpd を、7~9 問正解で 1.5 cpd を自動登録

(正解数 6 問以下の場合は CPD 単位の付与はされません)

6. 自動登録の時期

取得した CPD 単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

「水土の知 (農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております !

1. 学会誌小特集の要旨の募集とその報文原稿の執筆

学会誌は毎号テーマを設定した報文小特集を基本に、企画・編集を行っています。本小特集に投稿を希望される会員の皆様には、先に、下記に示す各号の趣旨に沿った報文要旨 (A4 判, 1,500 字程度, 様式自由) を要旨締切り日までに提出していただきます。

その後、企画・編集委員会において提出された要旨の内容を

検討し、小特集報文を提出していただく連絡を要旨提出された方に行います。その報文原稿の締切り期日は、おおむね本文原稿提出連絡日の約 1 カ月後です。本文原稿の分量は、刷上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守をお願いします。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがあります。

学会誌第 94 巻・第 95 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ		要 旨 締 切 (A4 判 1,500 字程度)
第 94 巻第 8 号	農業高校を取巻く多様な人材育成の取組み	終了
	9 号 工事・調査・実験・管理等の現場における基本作業の工夫と技術	終了
	10 号 農業農村整備における生態系配慮技術の最前線	終了
	11 号 農地整備を契機とした新たな農業経営	終了
	12 号 土地改良長期計画に基づく農業水利施設の戦略的保全管理とデジタル活用	終了
第 95 巻第 1 号	農業農村工学研究のフロンティア (仮)	7 月 10 日
	2 号 渇水リスクの高まりに立ち向かう農業用水の管理技術 (仮)	8 月 10 日
	3 号 集落の将来を考える (仮)	9 月 10 日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。

送付先 (要旨および本文原稿など)

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

(公社)農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会あて

TEL : 03-3436-3418

E-mail : henshu@jsidre.or.jp

※提出は、E-mail の添付ファイルにてお願い申し上げます。

学会誌第 95 巻第 1 号テーマ「農業農村工学研究のフロンティア」(仮)

農業農村工学の端緒である「耕地整理講義」では、水路、道路、区画、貯水池などの施設設計が体系化されています。併せて「農法の変遷」という時代の変化に柔軟に対応する必要性が述べられています。これにならい、施設設計のみに囚われることなく、エネルギー循環、生態系の保全、農村社会の維持など、本学会は時代に合わせて研究対象を拡大してきました。

2025 年 9 月に閣議決定された土地改良長期計画では、スマート農業による生産性向上、流域治水等の強靱化、農村の魅力創出などが重点課題とされています。また、2026 年度から始まる第 7 期科学技術・イノベーション基本計画では、研究の進め方の刷新、科学研究の AI 活用、地域イノベーションの推進などが検討されています。

本小特集では、本学会の特徴である融通無碍な研究姿勢を再認識し、他分野との境界領域や、対象外と捉えられうる研究を

広く募集します。例として、以下のような課題を想定しています。

- ・栽培学や営農技術との境界：気候変動や農村社会の変化に対応した生産体系の最適化やスマート農業による農作物の品質・機能性の向上
- ・食品産業や食品流通との境界：6 次産業化を支える加工・流通インフラの整備や地域資源の循環利用モデル
- ・社会科学や地域マネジメントとの融合：農村の地域運営組織や、地域の社会課題の解決につながる取組み

上記は、あくまでも例に過ぎません。当分野との接点を明確に意識しつつも、固定観念を打破する自由な発想による投稿を歓迎します。次世代を担う学生や若手研究者にとって、本学会が総合知の最前線であることを示すことのできる小特集となることを期待します。

学会誌第 95 巻第 2 号テーマ「渇水リスクの高まりに立ち向かう農業用水の管理技術」(仮)

近年、冬季の積雪不足や空梅雨の頻発など、従来の水資源管理の前提が覆される事態が常態化しつつあります。令和 7 年の夏は日本各地で記録的な暑さに見舞われ、河川水位の低下やダム貯水量の極端な減少が生じ、農業用水の確保や適正な配水が困難となりました。その結果、多くの地域で番水などの対応を余儀なくされました。「必要な時に必要な量の水を確保できない」渇水リスクの増加が顕在化しており、このような状況が続けば、不作に伴う農家の収入減、ひいては食料安全保障を脅かす事態に発展しかねません。こうした中、用水施設管理者や農家は農作物被害を最小限に抑えるため懸命な努力を続けています。

この課題に対し、用水再編や渇水対応を図る事業の実施が求められますが、その実現には長い時間を要するため、即効性の

ある対策も並行して進める必要があります。現在、限られた水資源を最大限に活用するための創意工夫と技術革新が各地で始まっています。たとえば、ICT や IoT を活用した細やかな水管理や水需要予測の高度化、ドローン・衛星を活用した作物生育状況や土壌水分のモニタリング等に関する技術開発・研究が進んでいます。また、作付け時期の調整や水利組合、関係機関、地域住民との連携・協力体制の構築、地域全体での水資源の効率的な配分に関する合意形成の取組みも重要性を増しています。

本小特集では、渇水リスクの高まりに立ち向かうため、全国の用水施設の管理者・営農者の皆さんの参考となることを目的に、水管理技術の開発、水需要予測の高度化、関係者間の合意形成の工夫など、現場で実践されている技術や研究に関する報文を募集します。

学会誌第95巻第3号テーマ「集落の将来を考える」(仮)

農村地域では、人口の減少・高齢化とそれに起因する地域資源管理機能の低下、地域活動の担い手確保の困難化など、多くの課題を抱えています。このような状況に対して、集落単位の将来の農業のあり方を描いてきた「人・農地プラン」に代わり、法定計画である「地域計画」が令和7年3月を期限として市町村を主体に策定されることになりました。また、類似の取組みとして、国土交通省では令和3年6月にとりまとめられた「国土の管理構想」に基づき、市町村・地域管理構想が進められています。いずれも、近い将来の集落について住民自らが維持すべき農地の明確化など土地利用の将来像を策定し、それを支える主体を考えるものです。これらは、集落の将来を考える上で有益な取組みですが、その策定には多くの課題もあります。特に「地域計画」については、策定して終わりではなく、継続的

なブラッシュアップが必要とされています。

このような取組みに関して、その策定状況を概観するとともに、策定された将来像のあり方、計画策定で生じた課題、計画の実質化方策等に関する議論を深めることは大変重要なことです。本小特集では、「地域計画」や「国土の管理構想」などの法定計画や政策的な取組みはもちろん、市町村や地域における自主的な取組み、計画策定（技術）に関する検討も含め、土地利用や地域資源管理のあり方を中心とした集落の将来を計画することに関する議論を広く展開できればと考えています。計画の策定状況や策定された計画の特徴に関する報告、計画策定過程の課題と適用できる技術、計画の実質化やブラッシュアップに関する知見等、多くの応募を期待しています。

2. 自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿原稿およびその他の投稿区分の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ（<https://www.jsidre.or.jp/journal/>）に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」、「『農業農村工学会誌』原稿執筆の手引き」

を熟読の上、小特集と同じく農業農村工学会誌企画・編集委員会にて、ご投稿ください。

ご投稿に当たっては、投稿票・内容紹介・本文（テンプレート）の各ファイル（Word）を上記の学会ホームページからダウンロードし、原稿の作成にご使用ください。

改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版の閲覧申込み案内

改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版の閲覧希望の皆様へ

改訂6版 農業農村工学標準用語事典は、2019年8月27日に発行し好評を得ていますが、下記に該当する冊子購入者の中で希望される方には、学会ホームページ上で閲覧サービスを行っています。該当する閲覧希望の方は、下記にしたがい閲覧の手続きをお願い申し上げます。

- (1) 本用語事典の学会 Web 上での開示については、①正会員でかつ個人で購入した方、および②学生会員での購入者（大学等での先生の紹介によるグループ購入者も含む）の中で希望される方へサービスを提供します。
- (2) 上記の条件を満たす方で閲覧を希望される方は、「改訂6版用語事典 Web 上閲覧希望」とメール件名に明記の上、

氏名、会員番号および購入年月を付記して（学生会員でグループ購入された方は、紹介の先生の氏名も含む）、下記 E-mail 宛にお申し込みください。

suido@jsidre.or.jp

- (3) 上記メールを受信および確認後、閲覧の手順およびパスワードを返信メールにてご連絡申し上げます。
- (4) 学会ホームページ上で閲覧が可能なものは、改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版が付記されたコンテンツになります。なお、Web 版とは、改訂5版から改訂6版の編集において、時代や科学技術の変化にともない改訂6版から削除した用語の中から現在においても参考になる用語を収録したものです。

2027年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、2027年発行の学会誌も引き続いて学会員の皆さまからの写真などを基本に表紙を飾ることとします。以下の趣旨を参考に魅力ある写真などをふるってご応募ください。

趣 旨

現代に入り農業の近代化のために、農業農村工学の粋を集めた多くの農業（水利）施設が造成され、農業や農村の基盤を支

えています。そして、近年、それらも更新や機能保全を重ね施設の様態も変化してきています。さらに、日本の農業農村工学の成果は技術移転により、海外の多くの国々で現地適用され、それらの国々の食料供給と農業生産の基盤を支えています。農業農村の現場で活躍される技術者、現場での調査研究に邁進されている研究者の皆さま、国内外の農村地域における農業施設・構造物、特に新たに完成した施設や施工中の現場事例およ

び国外においては日本の関連技術が適用された事例などの匠（造形美、用の美、融合の美）とそれを含む景観を広く学会員にご紹介ください。また、学生の方が実習やインターンシップなどで訪れた現場の写真も歓迎します。

記

1. テーマ

「農業（水利）施設・構造物とそれらに支えられた農地・地域の景観など：現代の最新技術と苦労が垣間見える造形美・用の美など」

2. 対象巻号 学会誌第 95 巻（2027 年第 1～12 号）

3. 写真などの種類

応募写真は A4 以上 B4 以下のサイズにプリントしたものとします。プリントは「写真用紙—光沢紙」を使用してください。四つ切りワイドも含まれます。なお、四つ切りは 254×305 mm、同ワイドは 254×356 mm、A4 は 210×297 mm、B4 は 257×364 mm です。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。データを送信する場合は一点につき 20 MB 以下とし、これを超えるものは CD または DVD にて送ってください。形式は JPEG のみに限定します。

4. 枚 数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限りです。

5. 締 切 2026 年 9 月 30 日

※応募時、過去 1 年以内に撮影したものに限りです。

6. 審 査 審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

7. 結果発表

学会誌第 95 巻第 1 号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は 2027 年度大会講演会会場内でパネル展示します。

8. 被写体の説明文または「Cover History（表紙写真由来）」の執筆および賞金について

採用作品の応募者は、撮影の動機、被写体にひかれた点、被写体の説明などを、学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」にご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。また、採用作品には規定の賞金（1 点につき 1 万円）をお支払いします。なお、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

9. 使用権・出版権

採用作品の使用権および出版権は（公社）農業農村工学会に属します。

10. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

また、被写体の学会誌への掲載、肖像権や権利関係については許可等、十分ご注意ください。

11. 応募方法および応募先

学会ホームページ（<https://www.jsidre.or.jp/format/>）より、投稿票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mail アドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名称（固有名詞）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送りください。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL：03-3436-3418

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと
2026 年 7 月から 2029 年 6 月までの編集体制と編集事務局

国際水田・水環境工学会（International Society of Paddy and Water Environment Engineering：PAWEES）では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」（略称：PAWE）を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。また、2024 年のインパクトファクター（IF）は 2.1 であり、国際ジャーナル誌としての位置づけが確立しています。

水田農業における土地、水、施設および環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑（水配分管理、水収支、灌漑施設、栽培管理）
- ② 排水（排水管理、排水施設）

- ③ 土壌保全（土壌改良、土壌物理）
- ④ 水資源保全（水源開発、水文）
- ⑤ 水田の多面的機能（洪水調節、地下水涵養など）
- ⑥ 生態系の保全（水生、陸生動植物の生態系）
- ⑦ 水利施設と減災・防災（施設管理、地すべり、気候変動、災害防止など）
- ⑧ 地域計画（農村計画、土地利用計画など）
- ⑨ バイオ環境システム（水田農業と水環境、土壌環境、気象環境）
- ⑩ 水田の多目的利用（田畑輪換、田畑転換、施設園芸）
- ⑪ 農業政策（農村振興、条件不利地の支援策など）

また、世界 12 カ国から Editor（22 名）を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer

社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

2026年7月から、新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです（一部検討中）。

編集体制

・ Editor-in-Chief

Dr. Yu-Pin LIN

College of Bio-Resources and Agriculture, National Taiwan University, Taiwan

・ Associate Editors-in-Chief

検討中

・ Editors 12カ国から22名

・ Editorial Advisors 27名

・ Chief Managing Editor

検討中

編集事務局（2029年6月まで韓国担当）

検討中

投稿先：オンライン投稿 (<https://link.springer.com/journal/10333>) になります。

投稿資格：筆者が農業農村工学会員で PAWE 誌の購読者であること。

投稿要領等：<https://link.springer.com/journal/10333/submission-guidelines> に詳細を記載しています。

発行スケジュール：年4回（オンラインジャーナル）

購読料：正会員・名誉会員 9,900 円（税込）

学生会員（院生含む）4,950 円（税込）

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。

なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016年度からの購読はパスワードによる Web 上での閲覧になっています。冊子体の配布はありません。

申込先：農業農村工学会事務局 (suido@jsidre.or.jp) まで会員番号を明記の上、お申し込みください。

関東支部 2026 年度技術研修シンポジウムの開催（第1報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 期 日 令和8年9月15日（火）

2. 会 場 Web 開催

3. テーマ 農村における外来種対策の最前線

4. 趣 旨

農業水利施設や農地においてさまざまな外来種の侵入や拡散、それによる被害が問題となっている。本シンポジウムでは関東地方を中心とした実態を踏まえ、ナガエツルノゲイトウ、カワヒバリガイ、アメリカザリガニ等を対象に、検知・監視や防除技術の最新知見を共有し、実践的な外来種対策への理解を深める。

5. 内 容（予定）

- ・ 民間事業者等からの取組み、対策の事例報告
- ・ 研究者からの研究、技術開発の事例報告
- ・ 行政機関からの関連情報提供

6. 参加費 無料

7. 主 催 農業農村工学会関東支部

共 催 （国研）農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究部門

（国研）農業・食品産業技術総合研究機構農業環境研究部門

後 援 （一社）農業土木事業協会

8. 事務局

〒305-8609 農研機構農村工学研究部門内

農業農村工学会関東支部 2026 年度技術研修シンポジウム事務局

9. その他

プログラム・問合せ連絡先等の詳細については、第2報に掲載予定です。

第81回中国四国支部講演会および第50回地方講習会の開催案内（第1報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



中国四国支部では、第81回支部講演会および第50回地方講習会を下記の要領で開催するので案内いたします。

1. 日程

(1) 支部講演会

日 時 2026年10月29日（木）10：00～17：00

会 場 あわぎんホール（徳島県郷土文化会館）大会議室（4階）、小ホール（5階）、会議室6（5階）

〒770-0835 徳島県徳島市藍場町 2-14

TEL：088-622-8121

プログラム

受付開始 9：30～

開会式、支部賞表彰式 10：00～10：25（大会議室）

特別講演 10：40～12：00（大会議室）

演題等調整中

<昼休憩> 12：00～13：00

一般講演 13：00～17：00（大会議室、小ホール、会議室6）

(2) 情報交換会

日 時 2026年10月29日（木）18：00～20：00

会 場 ザ・グランドパレス徳島

- 〒770-0831 徳島県徳島市寺島本町西1-60-1
TEL: 088-626-1111
- (3) 地方講習会
日 時 2026年10月30日(金) 9:30~12:00
会 場 あわぎんホール(徳島県郷土文化会館)
大会議室(4階)
プログラム
受付開始 9:00~
講習会 9:30~11:40 (大会議室)
演題等調整中
閉会式 11:45~12:00
※ 地方講習会は、一部の講習がWebになる可能性があります。あらかじめご了承ください。
※ 詳細については、農業農村工学会ホームページ内の中国四国支部講演会・地方講習会案内ページにも掲載しております。講演会での発表を希望される方は、Webページに掲載される情報にもご留意ください。
中国四国支部講演会・地方講習会案内ページ
(https://www.jsidre.or.jp/r8_chugokushikokushibutaikai/)

2. 講演申込み方法

- (1) 投稿票・講演原稿
投稿者は、中国四国支部講演会・地方講習会案内ページに掲載の「講演原稿の書き方」に従って原稿を作成し、原稿をPDFにしたファイルと投稿票を下記(8)のリンク先から提出してください。「投稿票」は同案内ページからダウンロードしてください。なお、発表時間や発表方法などについて連絡をとる場合がありますので、講演代表者の方は、必ず連絡先メールアドレスをお書きください。
提出の際、ファイル名は下記のとおりとし、「****」の箇所を講演代表者の氏名に置き換えてください。
・投稿票: ****_投稿票.xlsx
・講演原稿: ****_講演原稿.pdf
例) 四国三郎_投稿票.xlsx, 四国三郎_講演原稿.pdf
- (2) 講演資格
発表者のうち、少なくとも1名は学会員であることが必要です。
- (3) 講演方法
原則として、1人1課題です。発表形態は口頭発表です。各講演会場において、パソコンのプレゼンテーションソフト等を使って口頭で発表する形式になります。
- (4) 講演時間
1課題につき15分程度です。
- (5) 講演要旨集
申込みがあったすべての原稿を講演要旨集に収録しま

す。なお、原稿は、モノクロで収録されます。

- (6) 原稿の提出締切
2026年9月8日(火) 必着
- (7) 窓口・問合せ先
岡山大学工学部工学科 環境・社会基盤系 環境マネジメントコース 福元 豊
〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中3-1-1
TEL: 086-251-8161
E-mail: yutakafukumoto@okayama-u.ac.jp
- (8) 投稿票・講演原稿の提出先(下記の二次元コードからもアクセスできます)
<https://www.dropbox.com/request/aqua3ijy590tea8uz6ap>



3. 参加申込み方法

- (1) 参加申込書
参加申込みについては、中国四国支部講演会・地方講習会案内ページに掲載の「参加申込書」をダウンロードし、可能な限り所属機関ごとにまとめて、下記の(5)参加申込み窓口までメールでお送りください。その際、メールの件名は「【所属機関名】農業農村工学会支部講演会申込み」としてください。
- (2) 申込み期限
2026年9月15日(火) 必着
- (3) 参加費
・講演会 参加費【一般: 2,000円, 学生: 無料】
・情報交換会 参加費【8,000円】
・地方講習会 参加費【一般: 2,000円, 学生: 無料】
- (4) 参加費の納入方法
原則として、参加申込みに併せて銀行口座に全額前納での振込みをお願いいたします。振込手数料については、振込人負担をお願いいたします。また、上記(1)の参加申込書ごとに参加費を振込みしていただくとともに、振込み元がわかるよう、連絡者の所属・氏名等は必ずご記入してください。
なお、振込み後の参加費の返金については、原則として応じられませんのでご注意ください。
【振込口座】
○銀行名 徳島大正銀行 県庁支店 (062)
○口座番号 (普通) 8531350
○名義人 農業農村工学会中国四国支部徳島県実行委員会 委員長 谷本 修
(ノウギョウノウソンコウガクカイチュウゴクシコクシブトクシマケンジツコウイインカイ)
- (5) 支部講演会、情報交換会、地方講習会 問合せ先
・講演内容等総合的な運営に関すること
徳島県農林水産部農山漁村振興課 矢川、坂東
TEL: 088-621-2440

E-mail :

nousangyosonshinkouka@pref.tokushima.lg.jp

・参加申込みに関すること

徳島県農林水産部農山漁村振興課 國安, 久米

TEL : 088-621-2452

E-mail :

nousangyosonshinkouka@pref.tokushima.lg.jp

※投稿票・講演原稿提出窓口は別となりますのでご注意ください。

(6) 昼食・宿泊案内

昼食・宿泊の斡旋・手配等はいきませんので、各自での対応をお願いいたします。

第1回農村計画研究部会 次世代と学ぶ農村計画（現地研修）の開催（第2報）

当部会では昨年度まで46回にわたり行ってきました、おもに農村計画・農村整備現場担当者対象の研修を目的とした現地研修集会を改め、今年度から農村計画を担う次世代の育成を目的とする新しい現地研修プログラムを行うこととなりました。これは農村地域の社会や経済、空間利用いづれにおいてもその見通しがますます難しくなる中で、農業農村工学において農村計画分野を専門とする人材の育成が希求されているとの理解に端を発する企画です。全国の農村計画に関連する研究室の学生の皆さんが定期的集える場の形成を目指しています。学生の皆さんはもちろん学生をエンカレッジしたい、あるいは次世代の育成に関心のある農村計画・農村整備現場担当者の方々の積極的な参加をお待ちしています。

1. 主 催 農業農村工学会農村計画研究部会
2. 共 催 農村計画学会, 群馬県利根郡みなかみ町
3. 協 賛 農村計画学会
4. 日 程 令和8年9月1日（火）～3日（木）
5. 場 所 群馬県みなかみ町たくみの里
6. テーマ 都市農村交流による持続的な農村振興
7. 趣 旨

90年代以降、ガット・ウルグアイラウンド関連対策を含む農業構造改善事業等により整備された都市農村交流施設（情報発信、郷土料理提供、特産品販売、宿泊等）を拠点として、農村空間における経済活動および人的交流を促進する都市農村交流事業が、わが国の農村振興施策の一環として展開されてきた。しかし、過疎・高齢化の進行や市町村合併に伴う行政区画の広域化、担い手不足の深刻化といった社会構造の変化の中で、これらの取組みの持続性が大きな課題となっている。

本研修では、都市農村交流による農村振興を先駆的に実践してきた群馬県みなかみ町たくみの里を対象に、わが国における農村振興の取組みの体系的な学習と現地見学および関係者との意見交換を通じて、都市農村交流の実態と持続性にかかる課題を実践的に学ぶ。こうした現場での学びに加えて、学生による各自の研究テーマに基づく発表とそれに対する討議を行う。なお、発表テーマは都市農村交流に限定せず、農村計画に関する各自の研究テーマとし、大学の枠を超えた学際的な議論と交流の場とする。

そして、このプログラムを通して次世代の農村計画を担う人材の育成と、分野横断的な学びと交流の促進を図る。

8. 募集人数

・大学生または大学院生 20 名程度（先着順）

・一般（社会人）5 名程度（先着順）

※学会員以外の方もご参加いただけます。

9. 行程（予定）

9月1日（火）

- | | |
|-------------|---------------------------------|
| 13:00 | 上毛高原駅（上越新幹線）集合 |
| 13:30～17:00 | 農村振興に関する勉強会（関東農政局, みなかみ町, 大学教員） |
| 18:00～ | 情報交換会 |

9月2日（水）

- | | |
|-------------|----------------------|
| 9:00～12:00 | たくみの里の見学会 |
| 12:00～13:00 | 昼食 |
| 13:00～15:00 | 意見交換会 |
| 15:00 | （合同ゼミに参加しない場合はここで解散） |
| 16:00～18:00 | 合同ゼミ |
| 19:00～ | 親睦会 |

9月3日（木）

- | | |
|------------|----------------|
| 9:00～12:00 | 合同ゼミ |
| 13:00 | 上毛高原駅（上越新幹線）解散 |

10. 参加申込み

(1) 参加費 無料

※集合場所までの交通費は各自負担とする。

(2) 宿泊費 一泊二日の場合は7,500円

二泊三日の場合は15,000円

猿ヶ京温泉 仁田屋旅館

<https://www.nitayaryokan.com/>

(3) 申込み期限 令和8年7月17日（金）

※定員に達し次第、締め切ります。

(4) 申込みフォーム

下記 URL もしくは右記二次元コードより登録してください。

<https://forms.gle/k3NrYZgPkTuEMtaZ8>

(5) 問合せ先

研修集会担当

東京農工大学 中島正裕

E-mail : masa1021@cc.tuat.ac.jp



農村計画研究部 事務局
三重大学 森本英嗣

E-mail : morimoto@bio.mie-u.ac.jp

令和8年度農業農村整備サマーセミナー（農村振興研修会）の開催

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 主 催 全国農村振興技術連盟
後 援 農業農村工学会
2. 日 時 2026年7月23日（木）10：30～16：50
3. 会 場 交通ビル会議室
〒105-0004 東京都港区新橋 5-15-5
（ハイブリッド開催）
4. 問合せ先
〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4 農業土木会館内

全国農村振興技術連盟
TEL：03-3434-5407 FAX：03-3578-7176
E-mail：kensyu@n-renmei.jp

5. その他

申込方法等の詳細は、令和8年度農業農村整備サマーセミナーのホームページ（<https://www.n-renmei.jp/training/index.html>）をご覧ください。

業務に役立つセメント系補修・補強材料の技術講習会の開催

1. 主 催 （一社）セメント協会
後 援 農業農村工学会ほか
2. 日時・場所
各会場の日時・開催場所はセメント協会ホームページのセミナー・動画配信申込ページ（<https://jcafukyu.jp/>）をご覧ください。

3. 問合せ先
（一社）セメント協会 普及部門
TEL：03-5540-6180

4. その他

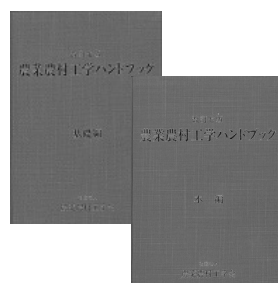
詳しくは、セメント協会ホームページのセミナー・動画配信申込ページ（<https://jcafukyu.jp/>）をご覧ください。

改訂七版 農業農村工学ハンドブック

公益社団法人 農業農村工学会 編

本書は「改訂六版農業土木ハンドブック」の精神を継承した上で、現代の農業農村工学を体系づけ、新分野の拡充と既存分野を整理・統合したものです。

本編（6部構成）、基礎編（6部構成）の2分冊とし、基礎編は、JABEE認定プログラムに配慮して構成しました。



体 裁：B5判 本文約1,250ページ
（本編約800ページ 基礎編約450ページ）
定 価：20,952円（税込＋送料200円）
会員特価：16,764円（税込＋送料200円）

発行：公益社団法人 農業農村工学会
TEL：03-3436-3418
E-mail：suido@jsidre.or.jp
学会ホームページ：https://www.jsidre.or.jp/